



芸術、文化で活躍する人を生み出していける場として期待される「もいち堂」

株式会社明新社（代表取締役社長 乾昌弘）は、もちいどのセンター街入口（奈良市橋本町）近くの一画に本社兼印刷工場を構えていたが、1989年、業務拡大により奈良市南京終町へ移転し、元印刷工場は同社の倉庫として利用されていた。

元印刷工場の有効利用を検討していた乾社長は、新しい文化を発信できる場所にしようと考えていた。

2008年2月、中心市街地活性化法に基づき、劇場と飲食店を組み合わせた基本計画案がまとまり補助金申請の段階に至ったが、2008年9月のリーマンショックにより入居を希望する店舗がなくなり、申請を一旦見送った。

社長は、基本計画案申請の前から奈良県出身の俳優・演出家である「劇団カムカムミニキーナ」の松村武さんと知り合いで、相談にのってもらっていた。元印刷工場へ案内したところ、松村さんは大変気に入り「このスペースを奈良発信の演劇の発表の場にしたい」と強く要望した。

劇、音楽会、講演会、パーティ会場などに利用すれば、まちおこしになると考えた社長は、フリースペースとしての利用を決めた。

松村さんや地元の演劇愛好家を中心となって、まだ工場のままだったホールを片付け、ペンキを塗るなど手作りで改装作業を進めた。

2010年9月23、25、26日の3日間、演劇を中心にしたこけら落としイベント「ナ・L I V E（ライブ）2010」が開催された。23日は、劇団カムカムミニキーナが、藤原不比等の4人の息子と女帝を軸に奈良時代の人々を描いた物語「平城京」を公演。当日は東京からも観客が来場し、約150席の会場は満員となった。25、26日は、野球には草野球があるのだから、芝居にも「草芝居」があってもいいのではとの思いから、松村さんが「草芝居リーグ」を企画。「草芝居リーグ」は、公募で集まったアマチュア約70人が4チームに分かれて約40分間のオリジナル劇を競演するイベ

ント。

フリースペースの名称は、工場の再利用や中心市街地の活性化の願いも込めて「もう一度」をもじって「もいち堂」と名付けられた。

「もいち堂」の本格オープンには内装、照明、音響設備などが完成してからになる。

社長は、「今後、もいち堂が、芸術、文化で活躍する人を生み出していける場になれば」と熱く語っていた。

（上田 祥博）

劇団カムカムミニキーナについて

1990年、早稲田大学演劇サークル「演劇倶楽部」のメンバーであった松村武、八嶋智人、吉田晋一ら5名で旗揚げ。

ハイテンションでテンポのよい笑いで壮大な物語へと観客を連れ去る独特の作風と演劇ならではの表現にこだわったダイナミックな演出に定評がある。

（劇団カムカムミニキーナ HP より転載）



「ナ・L I V E 2010」入口



草芝居リーグ 女帝～ABE～

（写真提供：もいち堂）